



品川・生活者ネットワーク NEWS No.120

2020.8/1

脂肪酸ナトリウムが脂肪酸カリウムを主成分とするせっけん使用を求めた。運動グループメンバーと環境課、河川下水道課との協議の場に同席する田中さやかと吉田ゆみこ。せっけん運動を推進するシャボン玉月間に品川区の首長メッセージ寄稿を依頼。2020.6.10



第2回定例会議の報告を中心に、新型コロナウイルス感染症対策で控えていた区政報告集を再開。上空には轟音とともに大型旅客機が通過した。2020.7.11大井町

区政 now

今、取り組むべきは五輪の推進なのか？

品川・生活者ネットワーク
区議会議員
田中さやか



今年度の特別委員会に生活者ネットは、風水害・疫病等発生に対応するための委員会を求めましたが、昨年同様行財政改革と、オリンピック・パラリンピック推進の2つが設置されました。

世界的にも感染症が拡がり、区内でも失職や、収入減により先行きが見えず生活不安を訴える人も多く、コロナ禍は終息の道筋すら見えません。五輪を当て込んだ観光客が不在でも羽田新ルートが強行されるなど問題を抱えている今、五輪開催に特化した特別委員会であれば、その緊急性に疑念をもたざるを得ません。

委員会では「五輪の機運醸成にカウントダウンを区のHP上に示すべき」と議員の発言がありました。区は、「今は感染症に関する発信が優先」と退けてもいます。市民生活の現状と議会の感覚にずれがあります。命や日常の生活に混乱が起きている区民に寄り添い、住民の税金配分を決定する役割が議会には求められています。

学校は学力向上だけか？

感染症の広がりから休校や施設が休館となり、子どもは家で過ごすことを余儀なくされました。6月に入り剥離骨折や肉離れ・靭帯損傷などを起こす子が増えたとNPO法人日本脆

弱性骨折ネットワークは指摘しています。休校措置が子どもの体力低下をもたらしたことがうかがえます。

学校では授業時数の確保に苦心していますが、躰をつくることも重要な視点です。そして、友だちと過ごす時間や一緒に何かに取り組みる機会は、子どもにとつてかけがえのないものです。学習の遅れは、学ぶ機会が保障されれば取り戻すことができま

住民の思いを受け止める議会に！

羽田新ルートの撤回や国に説明会を求める請願・陳情9件の



生活者ネットの議員も参加して市民と国会議員が国土交通省レクチャーを開催。その場で品川ネットも賛同して集めた「羽田新ルートの中止を求める署名」を提出した。4467筆の署名を提出する呼びかけ団体の羽田問題解決プロジェクト代表（左）と、羽田増便による都心低空飛行計画に反対する東京連絡会共同代表（中左）。2020.7.10衆議院第2議員会館

審査を建設委員会でを行いました。生活者ネットワークは全てに採択と主張しましたが、結果は「継続審査」で結論は先送りされました。

継続を主張した会派は、「国交省へ新ルートの固定化回避を求めた結果、『固定化回避に係る技術的方策検討会』の開催を実現した」と、国への働きかけの実績をアピールしています。しかし、区議会に寄せられた区民の声に対しては、賛同をするこ

生活者ネットワークのルール

- 1. 議員は交代制（ローテーション）**
生活者ネットの議員は、最長でも3期12年で交代します。議員は職業化・特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を活かします。
- 2. 議員報酬は市民の政治活動資金に**
生活者ネットワークの活動はカンパとボランティアで支えられています。議員報酬は、市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。
- 3. 選挙はカンパとボランティアで**
選挙は、政治に参加する入り口です。みんなでお金（カンパ）と知恵や労力（ボランティア）を出し合い、選挙を行います。

生活者ネットワーク「セクハラ・DV・性暴力対策」48自治体調査を実施！自治体ランキングで品川区は21位

生活者ネットワークは、女性への暴力根絶を訴えてきました。相次ぐ公人によるセクシャル・ハラスメントや性暴力事件への不当な司法判断、一向に減らないドメスティックバイオレンス（DV）と課題は山積しています。

生活者ネットワークとして「こまでは施策実施してほしい」と考える理想を100として点数化。実施している項目に1点、その他具体的な取り組みに加算して、自治体ランキングを導き出しました。100点満点で最高点は54点（日野市）、平均で33.92点。品川区は、回答48自治体中21位以下のグループに位置するという結果でした。

そこで生活者ネットワークは、2019年7月「女性の安全安心調査プロジェクト」を立ち上げ、制度の学習や当事者・支援者へのヒアリング、施設の視察などを実施、調査項目を検討しました。設問は「自治体に実施してほしいこと」に着目し、防止・相談・支援のしくみや周知の状況、性教育やデートDV予防教育、婦人相談員の待遇、民間支援団体とのネットワークを活かした連携、ワンストップ窓口などを、都内23区と25市の自治体で調査、品川区からも回答を得ました。

回答から、品川区はDV相談や支援、性暴力被害者対応に課題があることが見受けられます。教育現場でデートDV予防教育や助産師、保健師、産婦人科医など専門家や民間団体を招いての性教育は実施されておらず、上位ランキング自治体との差、違いとして表れています。さらには、子どもにかかわる課題認識や施策が不足しています。

今後はこの調査を活かして、無意識下の性差別や人権侵害のない、女性が安全に暮らせるまちをめざして教育委員会と区行政に政策提言を行っていきます。

INFORMATION

生活者ネットワークは現在、利用者目線で利用しやすい区庁舎へのアンケートに取り組んでいます。一例ですが、●交通の便が悪い●案内表示が利用者目線ではない●建物が分かれていて館内が分かりにくい●直接行けるバス路線が欲しい●障がい者や外国人にも意見を聞いてほしい●福祉関係窓口はワンストップにしてほしい●区役所ロビーにはコミュニケーションスペースが欲しい等々、課題や要望が多数寄せられています。

いただいた声を反映しながら、市民参加型まちづくりの専門家の講演とワークショップを開催し、区政への反映をめざします。

市民参加で利用しやすい区庁舎を考える—講演とワークショップ—

- 2020年9月5日(土)14:00~(開場13:30)
- 荏原第一区民集会所第1集会室 品川区小山3-22-3 TEL03-3786-2000 最寄り駅東急目黒線武蔵小山駅徒歩5分
- 講師:伊藤久雄さん (NPO法人まちぼとと理事)
- 一部:講演
- 二部:ワークショップ
- お問い合わせ品川ネットE-mail shinagawa@seikatsusha.net

編集後記/7月に入り新型コロナウイルス感染症の新規感染者が東京都を中心に再び増加している。しかし政府は、感染抑制に尽力するどころかGotoトラベルキャンペーンの前倒しに踏み切った。九州では豪雨による甚大な被害も起きている中で、人命より経済がまたしても優先されたことに憤る。被災地そして医療現場、感染症により厳しい状況に追いやられた市民への支援に舵をきるべきだ。(田中さやか)